

☆☆☆ エコチル調査を開始して1周年！ ☆☆☆
☆☆☆ 多数の応援、ご協力ありがとうございます！ ☆☆☆

「1周年記念シンポジウムに多数のご来場ありがとうございました！」

〈目次〉

1. 今月のコラム
2. おしえて、エコチル先生！
3. ユニットセンターだより
4. エコチル調査からのお知らせ

1. 今月のコラム

みなさま、こんにちは！新しい年がまた始まりました。今年の冬は寒いですね。私のいる大学では、もともと大きなガスストーブがたくさん各教室にあったのですがここ数年はガスを止めて電気ストーブに切り替えるようにしていたのです。でも、昨年の震災以来、電気だけにエネルギー源を頼るのはやめよう、ということで、この冬からガスストーブを積極的に使うようになりました。それにしても、昔のガス機器と違い、最近のものはガス線がひいてあるだけでは使えないのです。ガス機器なのに、電気のスイッチを入れないと使えないものが多いようです。もしかすると、これからは昔に戻って電気のスイッチが必要なものも出てくるかもしれませんね。それでは、今月もエコチルメルマガをお楽しみください！（戸高恵美子）

2. おしえて、エコチル先生！

今回はエコチル調査甲信ユニットのセンター長でいらっしゃる、山梨大学大学院医学工学総合研究部附属出生コホート研究センター長の山縣然太郎（やまがた・ぜんたろう）先生に、今、子どもの追跡調査をする意味について伺いました。

一 今回エコチル調査に参加された理由をおしえてください。

最近、子どもの病気も家庭環境も多様化してきています。たとえば子どものアレルギーの原因も昔と同じではなく、原因も、発症するメカニズムも変化しています。10年前と同じ治療法では対応できないアレルギーも増えているのです。そのような病気の原因を明らかにするには、より大きなコホート調査が必要と感じていました。環境や遺伝的な影響は、全国的な規模でしかも長期間追跡調査をしてみないとわかりません。この調査によって、将来、特定の疾患を予防することが可能になるのではないかと期待しています。健康管理は、大人はある程度自分でできますが、子どもは自分ではできませんので社会を改善して守ることが大切です。

一 この一年間エコチル調査を推進してこられて、ご感想はいかがですか？

この問題について関心を持っている人は非常に多いと感じます。協力をお願いすると8割以上の方が快く応じてくれますし、アンケートにもしっかりと答えてくれます。産婦人科や小児科の先生方も調査の重要性を理解し、忙しい中でも積極的に協力して下さり、とても助かっています。息の長い調査ですのでこれからも多くの方にご協力いただければ大変うれしく思います。

☆☆ インタビュー全文はホームページでご覧いただけます ☆☆☆
<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/supporter/column/column07.pdf>

3. ユニットセンターだより

「富山ユニットセンター、甲信ユニットセンターから
メッセージが届きました！」

富山ユニットセンター <http://www.med.u-toyama.ac.jp/eco-tuc/>

富山県と言えば、立山連峰と氷見寒ブリ・ホタルイカ・白エビなどの海の幸。

共働き率が高い富山は、子育て家庭を支える保育園や保育所が充実するなど、
子育てしやすい環境も整っています。

富山ユニットセンターでは、11の医療機関にご協力いただき、
37人のリサーチコーディネーターがシフトを組み医療機関に常駐して、
きめ細やかな対面リクルートを行い、着実に参加者を増やしています。
さらに、追加調査として「黄砂と子どもの健康調査」も実施しています。

スタッフ一同、富山県人的生真面目さ(!?)を存分に発揮し、
試行錯誤しながらエコチル調査に取り組んでいます。

(富山ユニットセンターのみなさん)

甲信ユニットセンター <http://ecochil-koushin.jp>

◆ 甲信ユニットセンター（山梨大学／エコチルやまなし）

「今日は『大安』だから、自治体の窓口に母子健康手帳をもらいに来る
妊婦さんが多いよ」

「じゃあ、きっと“商売繁盛”ね！」

甲府盆地の真ん中、山梨大学医学部キャンパスに設置された甲信ユニット
センターは、スタッフのこんな会話で1日が始まります。

山梨県内のエコチル調査は、甲府、中央、山梨、甲州、富士吉田の5市が
対象エリア。

病院と民間クリニック合わせて13の協力医療機関で出産する妊婦さんに
声をかけ、3年間で約4500組の親子に参加登録していただく予定です。

甲信ユニットセンターの自慢は、何とんでもスタッフのチームワーク！
センター長を中心に、教員5名、リサーチコーディネーター16名、
事務スタッフ5名が強力タッグを組み、少タイムポッシブルと思われる
ミッションにも、ひるむことなく突き進んでいます。

「妊婦健診の時、いつもエコチル調査のスタッフさんがそばにいてくれた
から安心して出産できました。」

参加妊婦さんのこんな声を心の支えに、今日もみんなでフル回転です。

(甲信ユニットセンター 小田和早苗さん)

◆ 甲信サブユニットセンター（信州大学／エコチル信州）

甲信サブユニットセンターの調査対象地域は長野県の上伊那地域です。
ここは南アルプスと中央アルプスに囲まれた、天竜川沿いの自然豊かな
地域です。

信州大学医学部のある松本からは約60km離れているので大変な面も
ありますが、市町村からの強力なサポートを受け、

リサーチコーディネーター、協力医療機関がしっかりとタッグを組み、
妊婦さんの「調査協力します」の声を励みに毎日頑張っています。

(甲信サブユニットセンター 堺温哉先生)

※リサーチコーディネーター（RC）とは・・・
調査対象地域にお住まいの妊婦さんたちにお声をかけ、エコチル調査の
内容を説明するなど、参加者と協力医療機関やユニットセンターをつなぐ
スタッフのことです。

ユニットセンターからのお知らせ

◆ 高知ユニットセンター <http://kochi-ecochil.jp/>

- ・高知地区初のエコチル調査単独イベントを開催します
「今、すこやかな環境とは～子ども達により良い未来を残すために～」
日時：平成24年2月25日(土) 10:00～15:30
場所：高知県立牧野植物園
※詳細は、高知ユニットセンターホームページに近日掲載予定

★ 4. エコチル調査からのお知らせ ★

- 1/22 エコチル調査開始一周年記念シンポジウムに多数のご来場
ありがとうございました
(詳細はエコチル調査ホームページにて近日公開予定)
- 1/31 平成23年度第2回エコチル調査企画評価委員会を開催します
- 最新のエコチル調査データ
参加者（お母さん）の数 22,041人
※平成24年1月6日現在（確定値のみ）

～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～

「サポーターのみなさんへのお願い」

あなたの身近な人に、エコチル調査をお知らせいただけませんか
10万組もの方々に参加いただくためには
ひとりでも多くの人に、エコチル調査を知っていただく必要があります
子どもたちのすこやかな未来のために、ぜひともご協力をお願いします

～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～☆～*～

- ・エコチル調査ホームページ
⇒ <http://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html>
- ・メールマガジンのバックナンバーはこちら
⇒ <http://www.env.go.jp/chemi/ceh/supporter/index.html>
- ・メールマガジンの配信停止
下のアドレスへ空メール(タイトル、本文未入力)を送信してください
⇒ ecochildteishi@oi06.asp.cuenote.jp
- ・配信先メールアドレスの変更をご希望の方は
新しいメールアドレスで再度サポーター登録をお願いします
⇒ <https://www.env.go.jp/chemi/ceh/entry/>

※このメールアドレスは配信専用です

発行／編集
環境省 環境保健部 環境リスク評価室
エコチル調査担当

